

## 2015年3月期通期決算発表に関する主なご質問

2015.5.19

### <2016年3月期の見通しに関する Q&A>

Q.2016年3月期の個別開示項目はゼロの見通しとなっているが、収益及び費用ともにゼロか？

A.収益・費用のどちらも一定程度発生する見通しです。過去数年に比べその発生額の規模は小さくなることを想定しています。

Q.2016年3月期の減価償却費と設備投資額はどの程度を見込んでいますか。

A.減価償却費は前年並みを想定しています。設備投資額は減価償却費を下回る見込みです。

Q.2015年3月期はフリー・キャッシュ・フローが14億円の黒字だったが、2016年3月期のフリー・キャッシュ・フローの見通しは？

A.2016年3月期のフリー・キャッシュ・フローは、収益の改善により前年より向上する見込みです。

Q.営業利益は、2016年3月期に前年比70億円改善する見通しを出しているが、その増益の要因は何か。

A.約3分の1がコスト削減、約3分の1がVA品向上による製品mixの改善、残り約3分の1が緩やかな市況改善による影響を計画しています。

Q.要因を地域別に分けると？

A.①北米自動車用ガラス事業での生産性の更なる改善。②日本建築用ガラス事業の増税数量反動減の回復、製品の値上げ、千葉事業所でのコスト削減。③高機能ガラス事業の超薄板ガラス等の利益改善、などを見込んでいます。

Q.有利子負債削減について、どのような方法で行っていく考えか。

A.事業収益性を高めることで、今後格付け改善にもつなげ、金利の低下・負債削減を行っていく方針です。

### <中期経営計画に関する Q&A>

Q.昨年中期中期経営計画発表以降、VA（高付加価値製品）比率は向上したのか。

A.VA比率は、2014年3月期は全体の約3分の1でしたが、2015年3月期で約40%まで向上しました。中期経営計画では2019年3月期以降で約50%を目標としており、進捗は順調です。VA品は地域ごとで異なりますが、建築用ガラスではガラス表面に金属膜をコーティングした製品、採光性の高いガラスなどが増えました。自動車用ガラスは紫外線・

赤外線をカットする性能を付加したガラスの採用が増え、高機能ガラス分野では、タッチパネル製品のカバーガラス用途で新製品の販売を開始しました。

Q.中期経営計画の進捗の報告で、守りから攻めに移っていくとあるが、具体的にはどういったことか。

A.これまでの数年間は、各市場の需給ギャップの解消、余剰能力・固定費削減を中心として行い、それらの調整はほとんど終了しました。しかし、メーカーとしての生産ラインの生産性向上、歩留まりの向上は十分ではなかったため、今後のコスト改善は、ここに力を入れていきたいと考えています。これにより、会社の体質をより筋肉質にして現場の競争力を高めていきます。また、市場の高度化にともない、VA品の市場も広がっており、それに即して開発を進めてきた新製品の商品化を加速していきます。これらのことを「攻め」ととらえています。

#### <その他のQ&A>

Q.今後の配当方針について。復配の条件は？

A.2016年3月期の配当につきましては、業績を鑑み無配の見通しとさせていただきました。復配のタイミングは具体的にいつと申し上げられませんが、考え方は中期経営計画の2018年3月期の目標（営業利益率向上、負債削減）に向けて推進する中で、目処が見えてくると思っており、中期経営計画の目標達成を急ぎたいと考えています。

以上。

注記：上記は発表日現在お寄せいただいた主なお問い合わせと弊社見解です。